

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サイラボ西宮北口教室		
○保護者評価実施期間	2024年12月16日		~ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 23人	(回答者数) 17人	
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		~ 2024年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4	(回答者数) 4	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していますことや意識的に行っています取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様やお子様からの相談に迅速かつ適切に対応できる体制が整っており、安心して利用できる事業所と感じていただいているようです。	・保護者様からの相談に臨床心理士・公認心理師が対応しています。 ・困りごとがあれば気軽に話せるよう態度や言葉遣いに留意しています。 ・相談内容をスタッフ間で記録 / 共有し、継続的に支援できる仕組みを整備しています。	・オンラインでの相談受付窓口の設置など、相談受付を一層行いやすくすることを検討します。 ・これまで記録された相談内容を職員間で分析し、共通の課題やニーズを抽出し、支援に活かしてまいります。
2	個別支援計画や実際の支援を通して、保護者様やお子様のニーズを十分に理解した上で、それらが行われていると感じていただいているようです。	・お子様一人ひとりの特性やニーズに合った対応をしやすいよう、1対1での個別支援を基本としている。 ・職員間での定期的な支援会議を通じて情報を共有し、支援内容や関わり方の相談を行なっています。	・標準化されたツールを用いてお子様の情報を分析するなど、一層適切な理解・対応が行えることを検討します。
3	臨床心理士・公認心理師が専門性を持って、お子様の特性に応じた支援内容を設定し、それに合わせたプログラムが工夫されていることが保護者様から評価されているようです。	・専門性を高めるためスーパーバイズを受けたり、職員間での積極的な意見交換の場を設定しています。 ・お子様それぞれの発達段階やニーズに合わせて支援構造や支援プログラムをカスタマイズしています。	・外部の専門家を招いた研修や、職員が学会・セミナーに参加する機会を増やし、最新の支援方法や知見を取り入れることを検討します。 ・職員が学んだ新しい知識や支援技術を、職員間で共有し、職員全体のスキル向上を図ることを検討します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所として地域のお子様との交流機会を作る機会がなく、そのようなご希望があった際にお応えすることが難しい現状があります。	地域のお子様と交流するような企画、プログラムや、実施の体制が現時点では十分ではないため、ご希望にお応えすることが難しい現状があります。	アンケートや面談を通じて地域のお子様との交流に関する保護者様やお子様のニーズを把握し、必要に応じて実施できるような体制を整えていくことを検討します。
2	緊急時の対応マニュアルや、消防訓練・避難訓練など、事業所として作成しているものや実施しているものを確認いただける場が少ないと考えております。	緊急時の対応マニュアルや、消防訓練・避難訓練など、保護者様への情報提供が限定的になってしまっています。	保護者様にもご確認いただけるような方法を検討します。
3	保護者様同士の交流機会や、きょうだい向けのイベント等の開催ができておりません。	ご利用いただいているお子様とその保護者様への個別の直接支援にまずは注力してまいりました。	まずは保護者様同士が気軽に集まって交流できるような機会を設けていく予定です。